

急性心筋梗塞の症状

しのはらクリニック

篠原 秀樹 先生

心筋梗塞は、冠動脈が血栓という血の塊によって閉塞を起こし、血流が遮断されて起こりますが、そのほとんどは粥腫(アテローム)の破綻によります。粥腫を伴う冠動脈硬化により、血管の内腔が正常の1/4以下となると労作性狭心症の症状が出始めます。心筋梗塞になるのはこうした高度狭窄だけとは限らず、軽度からいきなり閉塞になることもあります。つまり、「胸痛(狭心症)がある」場合や「まったく前兆が無い」場合もあります。特にたばこを吸う中年男性は、突然に心筋梗塞になることが多いと言われています。

急性心筋梗塞の症状として、約75%の場合が胸痛を認めます。「胸部前面の圧迫感」「締め付けるような絞扼感」「焼けつくような」「強い不快感」という性質があり、これに「強い気分不良」が加わると典型的です。また放散痛といって、痛みが顎や歯、左肩、左上腕部にも生じる場合もあります。しかし、逆を返せば心筋梗塞と診断された人の2割以上の方が胸痛を示さないともいえます。特に高齢者や糖尿病患者では「胸痛を伴わない心筋梗塞」が多く、75歳以上の高齢者では約半数が胸痛を伴わないとも言われています。

胸痛以外の症状は、「上腹部痛」「呼吸困難」「吐き気、嘔吐」「失神」などがあります。こうした症状は、胆石や胃食道疾患、肺梗塞・気胸などの肺疾患、心臓神経症などの心因性のものなどの鑑別が難しいことがあります。その他いきなり「心不全」「ショック」「重症不整脈」になり、突然死の原因となることもあります。

肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症といった生活習慣病を複数持つ人は何倍ものリスクを負っています。心筋梗塞を予防するには、こうした生活習慣病を是正すること、遠回りのように見えてもこれが一番ではないかと思います。